

# 令和5年度 学校評価 (学校関係者評価)

令和6年3月26日

学校関係者評価のポイント

<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。</li> <li>自己評価の結果は指標等とともに妥当なものであるか。</li> <li>自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適当であるか。</li> </ul>	<p>評価の数値</p> <p>⇒ 4：十分達成                      3：概ね達成</p> <p>          2：検討の余地あり        1：不十分</p>
--	--

## ○学校経営ビジョン (構想)

校訓である「理想」「優雅」「自主自律」の下、生徒一人一人に親身に寄り添い、互いを認め合い高め合う校風の醸成に努め、

- ① 生徒の主体的な挑戦・試行錯誤の場を支援・保障し、自信と誇り・自己肯定感と人間力を育む学校
- ② 確かな学力を培うとともに自律と協働の力を高め、持続可能な社会を維持・発展させる気概を育む学校
- ③ 学校・家庭・地域の連携により生徒の能力・適性を生かした進路を実現させ、社会に開かれ信頼と魅力ある学校

## ○具体的実践目標

### 1 確かな学力の育成 (自学力の育成・教養の涵養)

- ①学ぶ意欲の向上    ②自宅学習の充実    ③基礎基本の確実な定着    ④面談の充実    ⑤「都西サポート」の効果的活用
- ⑥ClassiとICT機器の効果的活用    ⑦初期指導の徹底と指導内容の継続

### 2 人間性の涵養 (自主自律の確立・豊かな心の育成)

- ①あいさつの励行    ②基本的生活習慣の確立    ③心身の健康の維持促進    ④面談の充実    ⑤部活動の推進
- ⑥ボランティア活動、及び地域活動の推進    ⑦人権教育の推進    ⑧読書活動の更なる充実

### 3 進路保証 (探究活動の深化・学外との連携推進)

- ①進路指導に対する早期意識付けと3年間を見通した進路指導の体系化    ②面談の充実    ③探究活動の更なる深化
- ④国内外の高校、及び大学との連携推進    ⑤家庭、同窓会、地域との連携による進路指導の充実    ⑥主権者教育の推進

### 4 学びの場の保証 (信頼される学校づくり)

- ①オープンスクール、及び中学校説明会の効果的実施    ②広報活動の充実    ③危機管理の徹底    ④相互授業研究の推進
- ⑤保護者へのきめ細かな情報伝達    ⑥内規の周知 (都西ハンドブック)    ⑧コンプライアンス意識の保持    ⑨研修の計画的・効果的実施

## ○生徒に身に付けさせたい資質・能力

- ①課題発見能力 (主体性・想像力)    ②行動力 (体力・持続力)
- ③協働力 (自己肯定感・コミュニケーション能力)    ④課題解決力 (論理的思考力・情報活用力)

達成手段	実践関連	学校		学校関係者	
		自己評価	成果○ 改善策● 継続審議△	評価	評価・具体的意見
教務	教育活動全般を通じて、生徒の自己実現のための4つの重点目標の具現化を目指す。 各部・学年・教科と連携を密にしながら、円滑な学校運営に努める。				
(1) 評価内規の見直しと改善、 観点別評価の在り方の検証	1-①②③	3.0	○新学習指導要領に沿った学習評価に関する校内内規を改定できた。 ●指導と評価の一体化についてさらに研究していく必要がある。	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談が生徒の負担にならないようにしてほしい。</li> <li>・戦略的な生徒募集や獲得を明確化する必要がある。</li> <li>・学校の方向を明示すべき。</li> <li>・個別相談会など、志願者増になる取り組みを行ってほしい。</li> </ul>
(2) 生徒理解面談期間、面談時間の効率的な設定	1-④ 2-④ 3-②	2.0	●本年度は計画的な時間設定ができなかった。次年度は、総務部と連携して面談の充実を図りたい。		
(3) 相互授業研修の企画と運営	1-①③	3.0	○10月に相互授業参観月間、10/31に授業研修会を設定し実施できた。グループ協議が好評であった。 ●3年生の推薦指導の日程を考慮し、次年度は日程設定を行いたい。		
(4) 的確な情報発信と保護者との連携強化	1-② 4-⑤	3.0	○ミライムでの職員連絡が改善できた。 ●Classi (ICT) を活用した情報発信などさらに工夫改善したい。		
(5) 年間を通じて行事の効果的な配置と運営	2-⑤	2.0	○現在実施している55分授業の検証を行った。 △令和7年度入学生から始める予定のコース制のカリキュラム・具体的な内容が未完成のままになっている。		
(6) 他校の先進的取組に関する幅広い情報収集	1-①	3.0	○県外視察（岐阜県立可児高校、静岡県立掛川西高校）の報告会を実施し、全職員に情報を共有することができた。		

(7) 志願者増につながる生徒主体運営のオープンスクールの研究	4-①	3.0 ○中学校の参加者（生徒・保護者）、運営に携わる本校生徒が昨年度より増えた。オンライン申込みも可能にした。 ○個別入試相談会、高校入試直前対策講座を新規実施することができた。 △より戦略的な生徒募集方法を検討したい。	
生徒指導	生徒指導 全ての生徒が有意義で興味深く、充実した学校生活を送ることで、感性豊かで心身ともに逞しい人間の育成をめざす。		
(1) 基本的な生活習慣の確立	2-①②	3.2 ○学校全体としては落ち着いた生活が確立されている。 △校則の変更については、改訂の手順をハンドブックに掲載することで、生徒の問題意識を高めたい。	3.3 ・校則の変更は必須。 ・生徒の安全性を最優先にした取り組みを。
(2) 自律した生徒を育てる	2-⑤⑥⑦	3.8 ○生徒会行事において、生徒の意見をくみ取り内容を大きく変えたことで、生徒の自主性や行動力を高めた。 ○学校幹旋のボランティアにのべ380人の生徒が参加した。 ●いじめ事案が発生した。人権教育と共に、嫌だと言える人間的な逞しさの強化も必要である。	
(3) 各関係部署との連携を図る	4-⑤	3 ○保護者への連絡を、Classiによるメールで配信することができた。 ○警察や他校との連絡を密にし連携を図ることができた。	
(4) 安全・安心な教育環境の醸成	4-③⑦	3.5 ○北門に減速ポールを設置したことで、安全性が確保された。また交通委員の活動により、交通事故やクレームを減らすことができた。	
進路指導	本校の教育目標のもと、学習指導の充実とキャリア教育の推進を図り、「主体的な学び」を追究し未来を拓く学習者を育む。 本校での学びを通して人間力・創造力・共生力の礎を築き、変動的で予測困難な社会においても豊かに自己実現と社会参画を果たす人材の育成を図る。		
(1) 個に応じた面談の充実と都西サポートの効果的な活用	1-④⑤	3.4 ○学期始めの朝課外を活用して面談を行った。 ○教科を中心とした講座や面談等を実施できた。 ●総務部などの関係部署との連携。	

(2) 初期指導の徹底と、継続的で組織的な進路指導の実践	1-⑤⑦	3.1	○第1学年団と連携した初期指導を実施した。 △学年の枠を超えた進路指導体制の構築が必要である。	3.1	・面談に時間を費やしてほしい。今の時代に非常に大切である。
(3) 進路志望に対する意識づけと3年間を見通した進路指導の体系化	3-①	3.2	○進路LHRや進路講演会を通して、進路志望に対する意識づけができた。 △進路の見通しの不十分な生徒への対応。		
(4) 地域や国内外の教育機関との連携強化と教育資源の活用	3-④	3.5	○大学や地域と連携し、大学出前講座や職業講座を実施することができた。 △大学の研究内容に対する興味関心を高める。		

**環境保健** 生徒及び教職員の健康・安全に関し、自主的に保持増進を図る能力や態度を育成するとともに、校内教育環境の整備を推進する。

(1) 定期健康診断、体力診断の結果をもとにした事後指導の充実を図り、健康増進・体力向上をめざす。	2-②③⑥	3.2	○全職員の協力のもと健康診断を終えることができて、事後指導に繋がった。 ○職員の健康増進はできていると思われる。 ○組織的に診断等の運営を行えた。	3.4	・初めて来校した者にも分かる経路図が必要である。
(2) 自主的な健康管理をめざして、保健委員会活動を通して啓発活動・保健指導を行う。	2-②③ 4-⑦	3.0	○葵碧祭での展示や、安全点検、CO <sub>2</sub> 濃度測定など係の仕事を取り組ませることができた。 ○保健委員会が率先して健康指導や啓蒙活動を行っていた。		
(3) 美化委員会活動を通して、清掃活動・校内美化の推進を図り、教育環境を充実させる。	4-⑦	3.0	△校内美化活動は継続して行っていきたい。協力して美化活動を行えた。		
(4) 防災訓練及び防災教育を通して、災害に対する意識を高めさせ、指導の充実を図る	4-③⑦	3.5	△火災や地震などの防災意識を高揚させることは重要である。 ●避難経路図の常設		

<p>(5) 基本的感染対策を行いながらも、学校生活が充実できるよう工夫・改善を行う。</p>	<p>2-② 4-③⑦</p>	<p>3.0</p> <p>○メリハリをつけた感染対策で行事が支障なく実施できた。</p> <p>●換気の意識付け</p> <p>●コロナ感染症の位置づけの変化で感染症対策は難しくなっている。</p> <p>○換気、手洗いうがい等を実施した。</p>	
<p>図書渉外</p>	<p>図書館利用を促進し、読書を通して優れた知識・教養を身につけ、自ら問題を解決していく力を育成する。</p> <p>P T A 活動の推進と、保護者・地域への情報発信を積極的に行う。また生徒職員の福利厚生に務める。</p>		
<p>(1) 朝の読書活動の充実</p>	<p>1-① 2-⑨ 3-③</p>	<p>3.4</p> <p>担任・副担任・学年団の協力で特に問題なく実施できている。</p>	<p>3.5</p> <p>・PTAの活動の充実を図り、親から子へと教育を伝えて行くべき。</p>
<p>(2) 幅広い分野の図書選定による図書資料の充実と図書館の環境整備</p>	<p>1-① 3-③ 4-⑦</p>	<p>3.4</p> <p>新しい書籍を購入しているが、利用が少ない。先生方の希望図書を購入するように工夫したい。</p>	
<p>(3) 図書委員会の活性化と図書委員による広報活動</p>	<p>2-⑨ 3-③</p>	<p>3.4</p> <p>ビブリオバトルや図書新聞等の活動に取り組んだ。特に1年生で昼休みの当番を忘れる生徒が多かった。</p>	
<p>(4) 各P T A 行事・学校行事等への参加促進</p>	<p>3-⑤</p>	<p>3.6</p> <p>合格うどん・都北地区秋季大会等多数の参加があり協力的であった。ザ・F M C 都西は母親だけでなく、父親の参加もあり良かった。</p>	
<p>(5) P T A 会報「葵碧」の充実と総務広報班との連携</p>	<p>4-②③</p>	<p>3.2</p> <p>コロナ以降、葵碧の発行をほとんど職員で行っているのので、来年度以降、どうすべきか検討したい。</p>	
<p>(6) 親和会の適切な運営と同窓会との連携</p>	<p>3-⑤</p>	<p>3.4</p> <p>月番制を廃止し、職員の親睦会を学年団を中心に担当することにした。まだ一回りしていないが、特に問題なければこの形で継続していきたい。</p>	
<p>総務</p>	<p>本校の教育目標の具現化のため、教育情報環境の充実に努め、学習効果を高める能力開発プログラムの構築を目指す。</p> <p>また、本校独自の教育活動を魅力化し、効果的かつ多角的な広報発信を推進する。</p>		

<情報班> 円滑な情報処理業務とICT活用促進の啓発

(1) 校務支援システムの効果的運用による作業効率の向上	1-⑥	3.4	○Classiを使用した保護者・生徒・職員に対する連絡はスムーズに行われ、使用の方法についても定着してきた。 ●教科指導におけるClassiの利活用について、積極的に使用するに至っていない。模試等と連携したシステムなどを研究し、職員研修を実施することで利用機会を増やしていく。	3.3	
(2) 授業効率化のための個人端末とGoogle Workspace of Educacionの積極的活用促進	1-①②	3.5	○多くの先生方がGoogle classroomを活用し、生徒への教科連絡や課題の配信、授業におけるアプリ運用など積極的に行うようになった。 ●(1)と重複する部分もあるが、Google classroomについても授業における効果的な使用方法を研究し、その成果を職員研修において紹介していく。		
(3) 生徒理解のためのClassiおよび諸データの有効的な活用促進	1-⑥	3.0	○学校から保護者および生徒への連絡については活用が定着した。今後も必要な情報の配信を一元化していく。また、担任団の中にはClassiをコミュニケーションツールとして活用しており、生徒の心理状況を的確につかむ手段として有効であった。 △模試成績と連動したコンテンツの利用については、情報班を中心に研究を行い、活用方法に関する研修会を実施していく。		

<広報班> 即時・即応的な広報と戦略的な本校PR活動の推進

(1) HPの運用と更新	4-②⑤	3.0	○インフォメーションに関しては、学校行事に合わせて配信することができた。 ●情報の更新に遅れがあったため、広報の動きと連携させる必要があった。	3.1	・生徒の発信を増やしてほしい。
(2) 効果的なSNS発信の研究・実践による本校教育活動の周知	4-②	3.4	○Instagramを使用した継続的な発信は認知度を上げている。 ●現在、SNSとして利用しているものはHP、Instagramであるが、そのほかのSNSコンテンツを取り入れても管理に課題があるため、この2つの充実度を上げる。		
(3) 魅力PRに特化した中学校説明会の企画・実践による募集定員の充足	4-①②	3.8	○前期中学校説明会において、生徒の学校紹介プレゼンを取り入れた。先輩が活躍する生の姿を見た中学生殻はとても好評で、次年度も取り入れたい。 ○12月に実施した入試個別相談会ポスター作成及び配布は、学校説明会以外に中学校に出向く良い機会となった。 ●趣向を凝らした中学校説明会を行ったが、募集定員の充足に大きな効果があったかは判断が難しい。学校改善事業と合わせて効果的なPR活動を行っていく。		

<学習支援班> 学習効果を高める能力向上プログラムの開発と各分掌行事の有機的關係の構築

<p>(1) 新入生初期指導の計画、実践と効果の分析による自学力の育成</p>	<p>1-①②⑦</p>	<p>3.4</p>	<p>○今年度より実施した新入生初期指導は、高校生活の意識付けにおいて効果の高いものであった。 ●継続性を持たせるには、初期指導後にも定期的な仕掛けが必要である。学期前後に振り返りとモチベーションを上げる方策を考える。</p>	<p>3.1</p>	
<p>(2) 3カ年の系統的な能力開発プログラム構築による自走集団の形成</p>	<p>1-①②③⑤</p>	<p>2.6</p>	<p>○学校改善事業において、3カ年を通した面談計画の策定に至った。 △面談計画のうち、一部運用している部分もあるが、継続的に実施する事で生徒の変容を確認していく。 ●目に見える形の自走集団が形成できたとは言いがたい。現行の取り組みをブラッシュアップしながら効果的な取り組みに対して力を注いでいく。</p>		
<p>(3) 4資質・能力（課題発見力・行動力・協働力・課題解決力）の育成のための進路直結型探究活動（IGI）のプログラム開発および実践</p>	<p>3-①③④</p>	<p>3.4</p>	<p>○特に総合的な探究の時間に関して、3カ年系統立てたプランを作り上げることができた。今年度は、企業メンターのほかに連携協定大学にもメンターを依頼し、2年生の活動を充実させることができた。都城西高校スタイルの総探として、さらにブラッシュアップさせていく。 ○2年次取り組んだ探究活動を3年生の進路決定に活用する生徒が複数名いた。大学合格者も出ており、探究活動に対する有効性が少しずつ認知されてきている。</p>		
<p>教育相談</p>	<p>関係職員、保護者、必要に応じて専門機関とも連携し、いじめや不登校など、個人の持つ悩みや困難の早期発見、解決、防止に努める。</p>				
<p>(1) 新入生面談、教育相談週間、いじめアンケート</p>	<p>2-③④</p>	<p>3.0</p>	<p>○各面談やアンケートをもとに迅速に対応できた。</p>	<p>2.9</p>	<p>・いじめはとにかく早期発見が大切。</p>
<p>(2) 入学前の保護者・本人との面談</p>	<p>2-③④</p>	<p>3.0</p>	<p>○保険調査からの情報が早期面談、支援につながるので、今後も継続したい。</p>		
<p>(3) 教育相談部員の各学年会への出席、スクールカウンセラー派遣依頼</p>	<p>2-③④</p>	<p>3.3</p>	<p>○各学年会に出席し、情報共有ができた。●スクールカウンセラーの派遣回数を増やせないか。</p>		

(4) 職員研修(年1回)、支援会議(適時)	2-③④	3.0	○職員研修を通じ、支援が必要な生徒について理解を深めることができた。		
事務	学校の運営基本方針及び教育活動に沿った学校事務の機能的、効率的な運営を図るとともに、安全かつ快適な教育環境を整える。				
(1) 効率的かつ効果的な予算の執行	4-⑦	3.0	○高額な物品・備品の調達等を中心に、事前に校内関係者との協議・調整を通して、適期・効果的な予算の執行を行うことができた。	3.1	・物価が今後も上がるので、コストを意識した方がよい。
(2) 環境に優しい物品の購入や光熱水費節約の推進	4-⑦	3.0	○物品購入において先生方の協力もあり、グリーン購入法適用商品の積極的な選択、購入をすることができた。 ○こまめな消灯の呼びかけ等を通じて、前年度と比較して光熱水費の節約が実現できた。 △電気料や物品の値上げが続いているため、今後も節約を呼びかけていく必要がある。		
(3) 安全で衛生的な教育環境の整備	4-③⑦	3.0	○校内の安全点検を全職員で分担して実施する等、職員間で連携して安全で衛生的な教育環境の整備に取り組むことができた。 △建物の老朽化が進んでいるため、今後も積極的に修繕に取り組む必要がある。		
(4) 他部や各学年との連携、協力体制の構築	4-⑦	3.0	○日常的に他部や各学年との協力体制の構築を図っており、各業務において情報共有を行うことで連携をとることができた。		
(5) 本校窓口としての適切な接遇による学校のイメージアップ	4-⑦	3.3	○適宜適切な接遇・連絡を心がけ、苦情等もなく対応できた。		



<p>(6) 学校徴収金等の納期内納入の促進</p>	<p>4-⑤</p>	<p>3.0</p>	<p>○早めの納入依頼を行うことで、今年度の授業料・校納金については完納となった。 △過年度の校納金未収金についてはまだ残があるため粘り強く督促していく必要がある。</p>		
<p>フロンティア科</p>	<p>高い学力と探究型学習を通してグローバルな人材の育成を図る。</p>				
<p>(1) 「学力評価コース」「総合評価重視コース」の更なる充実</p>	<p>1-① 5-①</p>	<p>3.0</p>	<p>今年度、推薦入試で優れた結果を収めることが出来た。 1・2年次のF学、探究活動の成果が出たと思う。来年度以降もフロンティア科独自の活動を充実させていきたい。</p>	<p>2.1</p>	<p>・学校を越えた行事の拡大を期待している。</p>
<p>(2) 「フロンティア科」を有する3校との連携</p>	<p>2-②③</p>	<p>1.0</p>	<p>連携をすることが今年度は出来なかった。</p>		
<p>(3) 海外との交流の強化</p>	<p>1-⑤</p>	<p>2.0</p>	<p>台湾の学校との交流は出来なかったが、来年度台湾の学校が本校を来校予定である。</p>		
<p>1 学年</p>	<p>3年間を見通して、学校生活の充実と進路実現の基盤となる、学習及び基本的な生活習慣の確立と基礎学力の確実な定着、言語力・表現力の向上と自己理解、グローバルな視点での課題発見力の育成に努める。</p>				
<p>(1) 初期指導の徹底、Classiの活用、面談の計画的実施、都西サポートの運用</p>	<p>1-①②③ ④⑤⑥⑦</p>	<p>3.5</p>	<p>○初期指導で都城西高校生としての学習の心構えを習得させることができた。スタートダッシュとして効果的であり、四月当初から、学年が目指すゴールのイメージを共有できた。○Classiによる学習記録を学習習慣の確立に活かした。○都西サポートの時間（自学学習会・面談）を活用して学習環境づくりや一人一人に対するきめ細かい面談ができた。△都西サポートの「教え合いも可」は学び合いにつながる面もあるか、私語との区別がつかない場面もあった。</p>		

<p>(2) 時間厳守・端正な容儀・スマホ利用・整理整頓等マナーやルール理解支援</p>	<p>2-①②</p>	<p>3</p>	<p>○ほとんどの生徒は基本的な生活習慣が身につけており、挨拶もよくできる。●マナーやルールについては、きちんと説明があったことに対してはすぐに改善されていた。スマホ利用等ルールを破っているという認識がない生徒もいたが声掛けや学年集会での話が功を奏した。登校時間が守れない生徒が固定化しているので、継続的な指導が必要。</p>	<p>3.6</p>	<p>・3年間を見据えて、都西に入ってくる生徒がどのような生徒であるかを理解することも大切である。</p>
<p>(3) 生徒の状況把握・生徒理解を深めるための面談の計画的実施</p>	<p>2-②③④</p>	<p>3.3</p>	<p>○担任面談、教育相談面談、プラスワン面談等、面談計画・実施が定期的に行われており、生徒の悩みや課題の早期発見、組織的連携で適切に対応することができた。△面談を希望する生徒や面談が必要だと思われる生徒に面談時間を長く割けるシステム作りも一考か。</p>		
<p>(4) 進路情報発信、面談や進路学習の充実による進路志望の早期意識付け</p>	<p>3-①②</p>	<p>3.3</p>	<p>○学年通信で毎週、具体的に進路情報を提供したことは早期意識付けとして有効だった。初期指導、職業講座、面談、学年集会等、様々な場面で進路指導を行い進路に向けた準備を始めさせることができた。△情報を提供しても上手く利用出来ていない生徒への具体的アドバイスが必要。</p>		
<p>(5) 対外活動・探究活動・読書による社会問題への視野と知識の獲得</p>	<p>1-① 2-⑨⑦ 3-①③</p>	<p>3.2</p>	<p>○探究活動で社会に目を向けさせ、朝の読書で視野を広げさせることができた。朝の読書の時間は集中して読書する環境をつくることができた。△探究活動については、内容の深まりと質の向上(調べ学習の先へ)につながるよう、職員と生徒がともに学べる講習会等があるとよい。</p>		
<p>(6) アウトプットの形態の工夫・機会の設定増等表現活動の充実</p>	<p>1-①④ 3-①②</p>	<p>3.3</p>	<p>○授業や探究活動での取り組み、初期指導の振り返りプレゼン等の機会を通して、ICT活用力やプレゼン力、スライド作成力を磨くことができた。</p>		
<p>2 学年</p>	<p>主体的な学びを通して確かな学力を身に付けさせ、中堅としての自覚と誇りを培い、全人的成長と進路実現に向けて学校生活の充実を図ろうとする姿勢を醸成する。</p>				

<p>(1) 都西サポート、朝課外、土日学習会などによる学習の習慣化と盤石な基礎学力の定着。</p>	<p>1-①②③⑤</p>	<p>3.0</p>	<p>○土日学習会は参加率も高く、アンケートでも好評。自学自習会の取り組みもよくテスト前の学習の習慣化に繋がった。○都西サポートの講座選択者には高い意欲が見られた。●一方で自習の選択が半数、朝課外も欠席多し。△自分の進路目標を意識した講座選択等を促す必要あり。</p>	<p>3.1</p>	<p>・自律を大切にしてほしい。子どもから大人になる時期に非常に大切なこと。</p>
<p>(2) 学校行事、部活動、都西サポート、校外活動などによる主体性、積極性、社会性の醸成。</p>	<p>2-③⑤⑥⑦</p>	<p>3.4</p>	<p>○生徒会が中心となり、文化祭等の学校行事で新しい企画等を立てて主体的に取り組んだ。○それぞれの部活動で中心的立場に立ち部を牽引した。○個人的に各種コンクール等に参加し入賞多数。ボランティアにも多くが参加した。△さらに多くの生徒の積極性を促したい。</p>		
<p>(3) Classiや面談、読書などによるアイデンティティの確立に向けた自己理解の促進。</p>	<p>1-① 2-③④⑧</p>	<p>2.9</p>	<p>○朝の読書で幅広い教養の醸成に努めた。○学年担当教師間で連携を図り、生徒の実態把握や面談など常時指導に努めた。●クラッシーでの学習の記録等が徹底されなかった。●世代とは言え、自己理解や友人関係の構築等で躓く生徒が多数。△今以上の自己解決力を育みたい。</p>		
<p>(4) 探究活動、都西サポート、校外活動などによる進路目標の設定と学校生活の充実の促進。</p>	<p>3-①③⑤</p>	<p>3.2</p>	<p>○大学生を招いての進路講演、類型や科目選択に伴う面談等で進路意識の向上が図れた。○探究活動では個々の興味関心に応じた探究が進められ、進路意識の醸成やMSE C参加への意欲向上に繋がった。●1年後やその先を見据えた進路意識の醸成を図る必要あり。</p>		
<p>3 学年</p>	<p>(1) 自分の行動が正当に評価されることを常に意識させると同時に、60回生としての自覚と誇りを持たせ、模範となる行動を意欲的に示す態度を養う。</p> <p>(2) 進路実現に向けて、最後まで諦めることなく継続した努力をさせ、卒業時に成長を自覚させて、次のステージへ送り出す。</p> <p>(3) 生徒の本質を最後まで信じ、具体的な個に応じた声かけや仕掛けを粘り強く行い、進路実現に向けて主体的に取り組ませる。</p>				

(1) ClassiのWebドリルによる弱点科目の克服	1-①②③⑥	2.2	●効果的な紹介と活用ができなかった。△うまく活用している者とそうでない者との差が、自然にできてしまったように感じる。	3.3	・推薦指導は学校の目玉にしてもよいほど素晴らしい。
(2) 講座制課外の実施による、成績向上・進路実現	1-①②③⑥	3.2	○クラス関係なくやる気がある生徒たちが一緒に同じ教室で勉強できる環境は良い。教科担当ではない生徒たちから、勉強の相談を受けることもあり、一人の生徒と関わる教員が増えることも良い。		
(3) 入試情報の正確な提供による、最後まで諦めない生徒の育成及び進路実現	1-① 3-①②	3.3	○担任団の協力的な人間関係があったため、毎日多くの情報を共有できたことは大きかったと感じる。○担任を中心に徹底的に調べ、情報提供を的確に行ったことで、共通・前期・後期・私立大等それぞれの試験に集団として真剣に臨んだ。		
(4) 計画的な面談(二者・三者)による、学習意欲の向上および進路実現	1-①②③④ 3-①②⑤	3.3	○面談は、のべつ幕無しに行えばいいというものではなく、適切なタイミングで行うことが大事で、生徒も教員も多忙感を持たないで済む程度を見極めるのが肝心だと感じる。		
(5) 学年集会・学年通信により自身の生き方の涵養	1-①②⑥ 2-②③⑧ 3-①	3.6	○通信が配付されるとすぐに生徒たちは読んでいた。やる気を出させたり、慰めになったりしたことは、かなり成功していたと感じる。○学年通信を冊子化して、配付できたことで、卒業後にも羅針盤となるような機会を作れた。○電子掲示板や階段の掲示物なども良かった。		
(6) 学校行事の主体的運営による、協働力・行動力・問題解決能力の養成	2-③⑤⑦⑧	3.3	○1・2年の生徒と協働し、文化祭・体育祭やクラスマッチをよりよいものにできたことは、生徒たちが行事ごとに見せる笑顔や涙が物語っていると思います。○いつも全力で取り組んで楽しんでいた姿からも、所属感をきちんと感じていたと思う。		

<p>(7) 60回生を自覚させることによる、学校貢献（帰属意識醸成）および進路実現</p>	<p>2-①②③ ⑤⑥⑦⑧</p>	<p>3.1</p>	<p>○ことあるごとに、旧制服の最終学年としての自覚を促し、効果的に進路実現に繋げることができた。○葵碧色の制服を着ているプライドを感じた。</p>
<p>(8) 2学期始業日までの調査書作成による、推薦指導時間の大幅捻出</p>	<p>3-①②</p>	<p>3.5</p>	<p>○調査書作成を夏に行うことで、体育祭以降の推薦指導に時間を費やすことができた。●夏に総合型選抜の小論文対策や面接対策にかけることができなかった。来年度は体育祭の時期が早まるため推薦準備の時間がより多くなる。総合型選抜対策も学年を越えてできると良い。</p>
<p>(9) 推薦指導プロジェクトによる、推薦合格者40%の達成</p>	<p>3-①②③</p>	<p>3.4</p>	<p>○国公立試験の総合型・学校推薦型（共通テストあり・なし）の合格者が65名中33名で50.7%を達成した。○3年間を通して様々な活動をしてきたことで、調査書や志望理由書の作成、面接などの多くの場面でいかすことができました。（特に学部学科研究、長期休暇の夢ナビは多用しました。）○推薦書作成は、調査書作成よりかなり苦しかったが、生徒に聞き取りをしながら作成したことで、その後の面接・小論文指導で自分も志望大学の学部・学科のことをより深く知ることができ、自分の理解度が高まったことは感謝している。○学力では届かない生徒でも、様々なタイプの入試に挑戦させることで、合格につながった。また、モチベーションを高めたり、継続させたりすることが、合格のチャンスを増やすという意識に繋がり、一般選抜で最後まで粘って受験することに繋がったと感じる。</p>